

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	GLP北本プロジェクト	階数	地上4F
建設地	埼玉県北本市	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	230 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年6月 予定	評価の実施日	2020年3月26日
敷地面積	25,055 m ²	作成者	三輪 文尊
建築面積	14,129 m ²	確認日	2020年3月27日
延床面積	54,478 m ²	確認者	長谷川 博一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100%
②建築物の取組み 74%
③上記+②以外の 74%
④上記+ 74%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 LED照明器具を採用し設備システムの高効率化を図る。 テナント倉庫としてゆとりある空間を考慮した。 敷地内は緑化を設け、周辺の景観に配慮した。		その他 特になし。
Q1 室内環境 工場用途のため対象外。	Q2 サービス性能 ゆとりのある階高、荷重、天井高とした。 主要内装仕上材の更新必要間隔20年を確保した。	Q3 室外環境(敷地内) 植栽による良好な景観形成している。
LR1 エネルギー 省エネルギーに配慮し、太陽光発電・高効率機器を採用した。	LR2 資源・マテリアル 屋根、外壁の断熱性能を確保し、熱負荷の少ない空間とした。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率73%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE-GLP北本プロジェクト

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.3	
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温									
2 外皮性能									
3 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御									
Q2 サービス性能					0.43			3.8	
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画									
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計									
2 維持管理用機能の確保									
2 耐用性・信頼性				3.3	0.50			3.3	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.4	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能		建屋各階に制震ブレースを採用		5.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		補修必要間隔25年		4.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		更新必要間隔20年		5.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				3.2	0.20				
1 空調・換気設備				3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20				
3 電気設備				3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA		4.0	0.20				
5 通信・情報設備				3.0	0.20				

3 対応性・更新性			4.2	0.50		-	-	4.2
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-	-	
1 階高のゆとり	ゆとりのある階高設定とした		5.0	0.60		-	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1		5.0	0.40		-	-	
3.2 荷重のゆとり	倉庫主要部分15000N/m ² 以上確保		5.0	0.30		-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40		-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	-	
6 バックアップスペースの確保	設備用バックアップスペースを確保		4.0	0.20		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57		-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30		-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40		-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.94		-	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用	太陽光パネルの設置		4.0	0.13		-	-	4.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEI _m] = 0.49		5.0	0.63		-	-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.25		-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制			1.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価			-	-		-	-	
4.1 モニタリング			-	-		-	-	
4.2 運用管理体制			-	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	-	2.8
1 水資源保護			3.0	0.20		-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60		-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		1.0	0.22		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	OAフロアを採用		4.0	0.22		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	-	
1 消火剤			-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50		-	-	
3 冷媒			3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO ₂ 排出率74%		4.0	0.33		-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.6	0.33		-	-	3.6
2.1 大気汚染防止	燃焼機器使用なし		5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制	乗用車・トラック駐車台数50台以上確保、荷捌きスペース・駐輪場確保		5.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	-	
1 騒音			3.0	1.00		-	-	
2 振動			-	-		-	-	
3 悪臭			-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-		-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	GLP北本プロジェクト	BEE	1.6	BEEランク	★★★★
------	-------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
4.0	+	3.0	=	7.0	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	4.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.0
<配慮した内容を記述> ライフサイクルCO2排出率82%。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 埼玉県の指導する緑地面積を確保した。			

: 入力欄